

令和 4 年 6 月 15 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2021

課題番号：19K00633

研究課題名(和文) 現代日本語における外来語表記の動態把握と問題解決に向けた調査研究

研究課題名(英文) Research and study for understanding the dynamics of loanword notation in modern Japanese and solving its problems

研究代表者

笹原 宏之 (Sasahara, Hiroyuki)

早稲田大学・社会科学総合学院・教授

研究者番号：80269505

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円

研究成果の概要(和文)：研究成果として、外来語に対して漢字、カタカナ、ひらがななどの文字種を用いた表記の実態と背景に関して期間中に刊行された論文、書籍、口頭発表など公開したものに、英語から入ってきた「レモン」「檸檬」、「ウイルス」「ウィルス」などのほか、ベトナム語で「ba」、チュノムで「糸へんに巴」などと記される絹織物を意味する語からの「パー」「パー」「ば」の類、ポルトガル語の「tutanaga」からとされる「トタン」「金へんに土」「金へんに丹」、イギリスの重さや長さの単位からの「トン」「ポンド」「ヤード」「マイル」「フィート」「インチ」に対する各種表記などのほか、外国地名についてのものなどがある。

研究成果の学術的意義や社会的意義

外来語の表記法は、公用文のほかマスメディア、民間団体、WEBサイトなどで各種の規則が定められ、独自の使用習慣が形成され、多様な位相が存在する。教育現場においても混乱を引き起こし、規範意識を個々に構築させていた。当研究は、社会における外来語のあり方と背景を多角的に調査研究し、諸問題に対する素材と成果の公開を行う。表記感と呼びうる意識が定位されることも明らかにした。

手書きに加え、電子機器を通じた文字入力による表記に関して、語と文字を立体的に関係づけ、捉えようとした点でも、先駆的な意義が認められるであろう。文字・表記論へ寄与するところがあり、教育や政策、各種辞典、マスメディアにも参照されうる。

研究成果の概要(英文)： The research results in this research project include descriptions of the actual situation and background of the notation of foreign words. Among them, the papers, books, oral presentations, and other widely published materials during the research period show that, with regard to the notation of foreign words in kanji, katakana, hiragana, and other script types, in addition to "lemon," "virus," and other words from English, the Vietnamese words "ba", which mean "silk fabric," are also written in katakana, hiragana, and other scripts in Vietnamese, "tin" supposed to be from Portuguese "tutanaga", and "ton", "pound", "yard", "mile", "foot", "inch" from British units of weight and length, etc., as well as about foreign place names.

研究分野：日本語学

キーワード：外来語 外国語 カタカナ表記 漢字表記

1. 研究開始当初の背景

かねてより漢字を中心とする日本語の文字とそれによる表記に関する種々の実態と背景に対して、通時、共時の両方から調査研究を実施してきた。漢字についての研究においては、字種、字体、用法の各面に対する考察に加え、文字のもつ本質である、語をいかに表記するかという視座が重要であることも示してきた。日本語の文字の多様性は、世界でも随一の複雑な表記法を生み出しているが、体系を構成する個々の要素に関する実態と背景の実証的な解明は、十分には行われていなかった。

日本語を表記するための要素として文字は、現代においても字種が数千種に及び、文字体系には漢字、ひらがな、カタカナ、ローマ字などの文字種が含まれ、各々がさらに複数の用法・機能を有するという複雑な要素を内包する。そうした中で、外来語は、カタカナで表記されるばかりではなく、漢字表記される語とひらがな表記される語のほか、ローマ字表記される語が各メディアに多数出現している。カタカナ表記においても語ごとの傾向に個別性が高いことが知られており、固有名詞を含めた新たな外来語は、原音に近い音素を書き表そうとする傾向が生じている。外来語表記のゆれの現実とその原因として、10種以上の各因子が多様な複合を起こしていることが指摘されていた。

外来語の表記法は、各省庁などの公用文のほか、NHK や新聞を始めとするマスメディア各社、出版各社、民間企業各社、各種団体、個々のWEB サイトなどで、互換性を欠く規則が定められていたり、独自の使用習慣が形成されたりして、種々の位相が存在している。英語を始めとする欧米諸言語などに加え、中国語、韓国語などアジアの言語に基づく外来語の表記法にも、政策だけでなく教育現場においても混乱というべき現状を引き起こしていた。

当研究は上記の状況をふまえ、日本語表記に関する研究上の課題に対応し、かつ政策立案などにも貢献しうるものであると考えられる。

2. 研究の目的

本研究は、諸メディアにおける外来語の表記の使用の実態とそのゆれの原因とそれらに関連する事柄について究明する。1991年に国語政策として内閣告示・訓令「外来語の表記」が公布されてから四半世紀が過ぎた現在、教科書、新聞、雑誌、テレビやWEBなど日本の各種メディアにおいて、そうした表記に関する問題が顕在化している。外来語はカタカナやローマ字、漢字などいかなる文字でどのように表記されているのか、そしてその理由・原因はいかなるものなのかということについて解明するための調査・検討を行う。表記上の揺れとその原因の総体を突き止めるため、過去の文献を含め、性質を異にする諸資料を対象に据えて整理・捕捉し、表記する際に意識される諸要素と実際の表現効果に関しても明らかにしていく。

巷間では「カタカナ言葉」という表現もあるが、実際には上記のように用いられる文字種には選択肢があり、さらに和語や漢語であってもカタカナで表記されることがあるため、場面に適した外来語表記、広くは日本語表記全体から見た外来語表記の位置というものも確かめる。

3. 研究の方法

日本語における外来語の表記を中核に据え、各種の情報媒体ごとに使用例の調査を行い、ゆれの有無とその程度に関する状況を明らかにする。実際の使用と各社・団体の表記規則との比較照合や、使用者と受容者の意識を捉えるために文字使用者らに対する聴き取り調査も行う。つまり文献調査と意識調査を通して分析と考察を実施する。

表音文字間における対立系と、漢字・国字による音訳や義訳が関わる対立系とに分類し、それぞれの外来語表記のゆれを捕捉したうえで、いかなる要素によって発生するものなのか、各方面からその原因を解明する。

4. 研究成果

学会及び書籍等で広く公表し、表記と音韻の関連性に新たな視座を与え、国語政策、辞書記述、マスメディア・教科書の規則、仮名漢字変換技術に寄与しうる情報の提示を行った。

主要な研究成果として、外来語に対して漢字、カタカナ、ひらがななどの文字種を用いた表記の実態と背景に関して期間中に刊行された論文、書籍、口頭発表など公開したものには、以下の内容を有する。

英語から入ってきた「lemon」に対する「レモン」「檸檬」_レ、「virus」に対する「ウイルス」「ウィルス」などのほか、ベトナム語で「ba」_バ、チュノムで「糸へんに巴」などと記される絹織物を意味する語からの「バー」「パー」「ぱ」の類、ポルトガル語の「tutanaga」_タ、オランダ語の「blik」からとされる「トタン」「金へんに土」「金へんに丹」_ト、「鍼力」「鍼」_チ、イギリスの重さや長さの単位からの「トン」「噸」_ト、「ポンド」「磅」_ポ、「ヤード」「碼」_ヤ、「マイル」「哩」_マ、「フィート」「呎」_フ、「インチ」「吋」などのほか、外国地名についてなどである。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 4件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 笹原宏之	4. 巻 39 - 4
2. 論文標題 年号と漢字	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本語学	6. 最初と最後の頁 4-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 笹原宏之	4. 巻 2019-11
2. 論文標題 Yicun Wenzhi(extant characters) in Japanese lexicon: Exploring characters of historically Chinese origin with evidence from Six dynasties, Sui and Tang dynasties, China	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中国文字	6. 最初と最後の頁 153-173
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 笹原宏之	4. 巻 40 - 2
2. 論文標題 二五年間の「国語に関する世論調査」に現れた漢字などに関する意識	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本語学	6. 最初と最後の頁 30-46
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 笹原宏之	4. 巻 1
2. 論文標題 日本語と中国語に借用された字喃で表記されるベトナム語 辞典に採用された「紦」（バ）の漢字圏における伝播と変容に関する字誌	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 早稲田大学日本語学会設立60周年記念論文集 言葉のしくみ	6. 最初と最後の頁 55-70
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 笹原宏之	4. 巻 3
2. 論文標題 The Regional Distribution of Japanese Kanji	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Chinese Writing Systems	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 笹原宏之	4. 巻 2
2. 論文標題 ヤード・ポンド法単位を表す漢字・国字の発生と日中における広まり - イギリス系の度量衡「碼」「磅」「噸」「哩」「呎」「吋」を中心に -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Understanding Regional Dynamics in Asia-Pacific	6. 最初と最後の頁 243-259
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計4件 (うち招待講演 2件 / うち国際学会 3件)

1. 発表者名 笹原宏之
2. 発表標題 日本の漢字研究の最近の動向と新しい課題
3. 学会等名 「漢字・漢語研究の新潮流」早稲田大学・北京大学共同研究交流会 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 笹原宏之
2. 発表標題 借用された漢字系文字における形音義・用法・表記法・使用集団の変化 - 辞典採用字の漢字圏における伝播と変容に関する字誌・表記誌
3. 学会等名 東京外国語大学AA研アジア文字研究基盤の構築2
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 笹原宏之
2. 発表標題 日本製漢字の造字法 付 朝鮮（韓国）製漢字
3. 学会等名 日本漢字学会（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 笹原宏之
2. 発表標題 日本製漢字の中国への伝播と交流
3. 学会等名 「漢字・漢語研究の新展開」北京大学・早稲田大学共同研究交流会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計7件

1. 著者名 加藤重広・岡墻裕剛編 笹原宏之	4. 発行年 2021年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 292-343
3. 書名 日本語文字論の挑戦 表記・文字・文献を考えるための17章	

1. 著者名 笹原宏之	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東京新聞	5. 総ページ数 142
3. 書名 漢字は生きている	

1. 著者名 山田忠雄、笹原宏之ほか編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 三省堂	5. 総ページ数 1792
3. 書名 新明解国語辞典第8版	

1. 著者名 金文京編 笹原宏之	4. 発行年 2021年
2. 出版社 文学通信	5. 総ページ数 452
3. 書名 漢字を使った文化はどう広がっていたのか 東アジアの漢字漢文文化圏 東アジア文化講座2	

1. 著者名 瀬間正之編 笹原宏之	4. 発行年 2020年
2. 出版社 花鳥社	5. 総ページ数 21 (pp.23-43)
3. 書名 上代の字体入門 「上代のことばと文字」入門	

1. 著者名 笹原宏之	4. 発行年 2022年
2. 出版社 花鳥社	5. 総ページ数 109-143
3. 書名 日本製漢字の造字法 付・朝鮮(韓国)製漢字 漢字系文字の世界 字体と造字法	

1. 著者名 笹原宏之	4. 発行年 2022年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 192
3. 書名 漢字ハカセ、研究者になる	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>高純度化学研究所 公式ブログ 「元素を表す漢字」 https://www.kojundo.blog/kanji/2787/</p>
--

6. 研究組織		
氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関